
社 会 活 動

業績集 地域貢献諸活動

【看護学科】

氏名：大関 信子

実施年月：2017/4/21

内容：Accelerated Resolution Therapy for Women Veterans Experiencing Military Sexual Trauma Related Post-Traumatic Stress Disorder

実施年月：2017/6/29

内容：Development of Cultural Humility with a Short-term Cultural Experience

実施年月：2017/7/18

内容：Climate change, women and girls: the case for intersectionality,

実施年月：2017/11/2

内容：Climate change, women and girls: the case for intersectionality (Revised)

実施年月：2017/4

内容：新しい年のスタートに思うこと（地方誌投稿）

実施年月：2017/7

内容：AI(人工知能)は人間を幸せにするか（地方誌投稿）

実施年月：2017/10

内容：「もったいない」は青森そして日本を救う（地方誌投稿）

実施年月：2018/1

内容：地域社会研究の重要性（地方誌投稿）

氏名：木村 恵美子

実施年月：2017/4/21、5/26、6/23、7/21、8/25、9/15、12/15、2018/1/12、2/9、3/9

内容：つがる総合病院リンパ浮腫外来で、患者ケアと看護師への実践指導を行った。

実施年月：2017/4/11、5/16、6/15、12/21、2018/3/8

内容：リンパ浮腫外来で患者へのケアと実践指導を行った。

実施年月：2017/4/14、7/14、11/22、2018/1/19

内容：第3者委員として住居者の皆様に1人ずつ意見の聞き取りをした。

実施年月：2017/6/2、9/12、12/25、2018/3/10

内容：第3者委員として協議に参加し検討した。

氏名：古川 照美

実施年月：2017/5

内容：HL向上活動 鱈ヶ沢町ひろみちお兄さんの親子体操

実施年月：2017/6

内容：岩木地区・相馬地区住民における健康調査

実施年月：2017/7

内容：HL向上活動 鱈ヶ沢町健康フェスティバル

実施年月：2017/11

内容：HL向上活動 健やか力検定

実施年月：2017/11

内容：HL向上活動 アピオあおもり 秋まつり

実施年月：2017/12

内容：健康づくりリーダー育成ゼミ グループワーク

業績集 地域貢献諸活動

実施年月：2018/1

内容：HL 向上活動 元気フェスタ partⅢ

実施年月：2018/2

内容：あおもり健康づくり実践活動報告会コメンテーター

実施年月：2018/3

内容：ステップ1 ワークショップ

氏名：鳴井 ひろみ

実施年月：2018/1/27

内容：むつ総合病院医誌査読

実施年月：2018/3/3

内容：第15回日本乳癌学会東北地方会座長

実施年月：2018/2/16

内容：看護研究計画書検討会

実施年月：2018/1/27

内容：未来のがん化学療法看護を担う人育成

実施年月：2017/8

内容：日本看護科学学科学術集会査読

氏名：福岡 裕美子

実施年月：2017/9

内容：平成29年度世界アルツハイマーデー参加
認知症サポーター養成・活性化事業の一環として参加

実施年月：2017/9

内容：地域包括支援センターみちのくとコラボによる認知症サポーター養成事業参加

実施年月：2017/10

内容：平成29年度ヘルスリテラシー特別公開講座
午前__認知症サポーター養成講座
午後__ステップアップ講座

氏名：細川 満子

実施年月：2017/5/27、7/22、9/16、12/9

内容：研修科助成事業 訪問看護師の実践力・実習指導力アップ研修

実施年月：2017/9/23、9/19、2018/3/13

内容：青森市独居高齢者へのボランティア活動

実施年月：2017/9/28、10/19、10/20

内容：平成29年度青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会（特定分野） 在宅看護実習指導の方法

氏名：川内 規会

実施年月：2017/10/28、10/29

内容：平成29年度「第5回医療通訳養成研修」青森県立保健大学において、2017年10月28日、29日に青森県内のボランティア通訳者、医療者、医療現場で通訳の経験のある人などを対象に、「知識、技術、倫理」の基本講義と演習を実施した。今年は5年目を迎えたことから、実際の医療通訳の現場の様子を共有することを目的とし、通訳業務で必要なことは何かを一緒に考え、情報交換の場にした。

氏名：清水 健史

実施年月：2017/9

内容：平成29年度「社会福祉主事資格認定講習会」
「精神障害者保健福祉論」

氏名：千葉 敦子

内容：あおもり杖なし会（事務局）

業績集 地域貢献諸活動

氏名：鄭 佳紅

内容：認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修講師（北海道、青森、岩手、山形）

内容：認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修講師（北海道、秋田、宮城、三重、青森県立保健大学地域連携・国際センター）

内容：認定看護管理者教育課程サードレベル研修講師（岩手）

氏名：長内 志津子

実施年月：/2017/8

内容：青森市中央市民センター キッズスクール「キッズ書の道」・講師

実施年月：2017/9

内容：リレーフォーライフジャパン青森・ボランティア

実施年月：2017/9

内容：青森県立五所川原高等学校出張講義「キャッチ・ザ・大学」・講師

実施年月：2017/10

内容：あおもり協立病院看護部研修「高齢者の特徴をふまえたコミュニケーション」・講師

実施年月：2017/12

内容：青森市中央市民センター キッズスクール「キッズ書の道」・講師

実施年月：2018/2

内容：ジョブカフェあおもり 就活支援セミナー「美文字講座」・講師

実施年月：2018/3

内容：青森市協働のまちづくりネットワーク交流会・メンバー

氏名：小池 祥太郎

実施年月：2017/7

内容：研究計画書指導

実施年月：2017/9

内容：フィジカルアセスメント指導

実施年月：2018/1

内容：研究論文指導

氏名：田中 栄利子

実施年月：2017/8/10

内容：教員対象、医療的ケア技術演習講師

実施年月：2017/8/1、8/2

内容：小学生対象、食事・運動・睡眠に関する健康教育

実施年月：2017/10/21

内容：みんなで考えよう！青森県の小児在宅医療（続）-ボランティア

実施年月：2017/10/7

内容：ヘルスリテラシー向上サポート活動-ボランティア

業績集 地域貢献諸活動

氏名：村上 眞須美

実施年月：2017/6

内容：

【事業名】採用力向上セミナー

【主催】女子学生のキャリア支援ワーキンググループ

【役割】企画・運営・司会

【開催場所】ラ・プラス青い森

【対象】青森県内の新卒看護師・介護・福祉職の採用を検討している施設

実施年月：2017/7

内容：

【事業名】あおもり認定看護管理者会 セミナー

【主催】あおもり認定看護管理者会

【役割】企画

【開催場所】アスパム

【対象】看護職

実施年月：2017/10

内容：

【事業名】日本看護質評価改善機構 教育事業

【役割】企画・司会

【開催場所】CIVI研修センター 新大阪東

【対象】看護 QI プログラムを活用したことがある施設の看護職

実施年月：2017/11

内容：

【事業名】採用力向上セミナー

～ホームページを活用した魅力の発信～

【主催】女子学生のキャリア支援ワーキンググループ

【役割】企画・運営・司会

【開催場所】青森県立保健大学

【対象】入門編を受講した施設の採用担当者

実施年月：2018/1

内容：

【事業名】あおもり認定看護管理者会 実践報告会

【役割】企画・座長

【開催場所】アスパム

【対象】看護職

実施年月：2018/1

内容：

【事業名】あおもり認定看護管理者会 セミナー

【役割】企画・運営

【開催場所】アスパム

【対象】看護職

実施年月：2018/3

内容：

【事業名】日本看護質評価改善機構 教育事業

【役割】企画・司会

【開催場所】CIVI研修センター 新大阪東

【対象】看護 QI プログラムを活用したことがある施設の看護職

氏名：小林 昭子

実施年月：2017/5

内容：入居者へのオイルマッサージを施行

実施年月：2017/9

内容：担当__計画書作成グループワークファシリテーター

主催：青森県立中央病院

対象：看護職員

氏名：佐藤 しのぶ

実施年月：2018/6～9

内容：認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修 専任教員

業績集 地域貢献諸活動

氏名：石切 麻希子

実施年月：2017/7

内容：主催__青森県小児糖尿病サマーキャンプ実行委員会

青森県小児糖尿病サマーキャンプ企画・運営・学生ボランティアの引率

実施年月：2017/8

内容：主催__青森県立保健大学ケア付きねぶた運行班

実施年月：2017/9

内容：主催__青森県看護協会

静脈注射学び直し研修会企画・運営・演習講師

氏名：金野 将也

実施年月：2017/9

内容：＜役割＞演習講師

氏名：木村 ゆかり

実施年月：2017/9/14

内容：認知症サポーター養成講座

実施年月：2017/10/28

内容：認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座

実施年月：2018/1/19、1/26

内容：平成29年度訪問介護サービス担当責任者研修会

業績集 地域貢献諸活動

【理学療養学科】

氏名：李 相潤

実施年月：2018/1

内容：救急救命士養成

実施年月：2017/8/30

内容：黒石看護学校の解剖学実習

氏名：スミス マイケル

実施年月：2017/9

内容：Japan Association for Language Teaching (JALT), Tsugaru Ideas in Language Education Symposium 2017

実施年月：2017/7

内容：外国人教員による海外ゲーム交流

氏名：橋本 淳一

実施年月：2017/4/1-2018/3/31

内容：小学生における健康支援プロジェクト

氏名：福島 真人

実施年月：2017/7

内容：

<主催>青森県ユニバーサル大会実行委員会

<開催場所>青森県総合運動公園

実施年月：2017/9

内容：

<役割>企画者

<主催>青森県立保健大学同窓会

実施年月：2017/9

内容：平成 29 年度 外部専門家活用事業

氏名：木村 文佳

実施年月：2017/7/9

内容：

事業__青森県理学療法士会新人教育プログラム

役割__講師

主催__青森県理学療法士会

開催場所__青森県立中央病院

対象__日本理学療法士協会新人教育プログラム単位

未修得者

業績集 地域貢献諸活動

【社会福祉学科】

氏名：出雲 祐二

実施年月：2018/5/14

内容：秋田県看護協会・訪問看護師養成講習会・講師

実施年月：2018/7/11

内容：秋田県藤里町社会福祉協議会・H30 年度介護福祉士実務者研修・講師

実施年月：2018/7/27

内容：青森県社会福祉協議会・H30 年度中堅民生委員児童委員研修会・講師

実施年月：2018/11/3

内容：青森県介護福祉士会・H30 年度ファーストステップ研修・講師

氏名：大竹 昭裕

実施年月：2017/9

内容：平成 29 年度社会福祉主事資格認定講習会講師

氏名：石田 賢哉

実施年月：月に 1 回程度

内容：青森刑務所 就労指導（SST）

実施年月：月に 1 回程度

内容：更生保護施設 SST 講師

実施年月：月に 1 回程度

内容：労働精神障害専門調査員

氏名：齋藤 史彦

実施年月：2017/4

内容：＜事業名＞サタデイ☆1くらぶ

＜役割＞スタッフ

＜主催＞青森家庭少年問題研究会

＜対象＞ひとり親家庭の子ども

氏名：廣森 直子

実施年月：2017/5

内容：特定非営利活動法人 ドアドアらうんど・青森が運営する「ほ・だあちゃ」（就労継続支援 B 型）のカフェスペースにて開催した地域住民向けの講座の企画運営。2017 年度は 5/21 開催。

実施年月：2018/3

内容：青森さくらの会が行ったひきこもり当事者の家族および県内自治体・社会福祉協議会を対象とした実態アンケート調査の実施の協力（調査票作成の助言、集計分析作業等）

業績集 地域貢献諸活動

【栄養学科】

氏名：吉池 信男

実施年月：2017/5

内容：高大連携事業「健康と栄養管理」（青森市）

実施年月：2017/7/13

内容：食の安全（栄養・食育マネジメント）セミナー―「平成27年度乳幼児栄養調査からみた就学前児童の食生活の問題と対応」（青森市）

実施年月：2017/7/24、7/25、7/31、8/1、8/7、8/8

内容：個々人の成長等を踏まえた生活習慣支援や肥満対策～学校での取組状況と課題・実践～ 青森県健康管理プログラム活用研修会（青森市）

実施年月：2017/8/9

内容：子どもたちの成長・発達に応じた食生活支援・食育を考える。平成29年度青森県私立幼稚園教員研修大会（八戸大会）

実施年月：2017/8/24

内容：次の10年に向けた県央地域の災害食・ものづくり分野からの要配慮者対策の展開―産学官が連携した取組の推進―（ワークショップ） 災害食・ものづくりセミナー（新潟県三条市）

実施年月：2017/11/6

内容：子どもたちの発達と栄養を支える食生活支援・食育を考える。青森市平成29年度給食従事者研修会（青森市）

実施年月：2017/11/9

内容：Experience of health policy and improvement of nutrition in Japan, Workshop on Improvement of Maternal and Child Nutrition（東京）

実施年月：2017/11/20

内容：The importance of FBDG(Food-based Dietary Guidelines). The FBDG Launching Seminar（Phnom Penh）

実施年月：2017/11/25

内容：健診等における食事の評価と指導（食事バランスガイド）。人間ドック健診専門医研修会（神戸）

実施年月：2018/1/12

内容：地域での栄養改善・食育について。秋田県平成29年度栄養改善中央研修会（秋田市）

実施年月：2018/1/20

内容：子どもにおける食品安全対策、表示・教育について～乳児ボツリヌス症を教訓に考える～。第12回子どもの食育を考えるフォーラム（東京）

実施年月：2018/2/8、2/19

内容：保育所における感染症対策ガイドライン。栄養に関する基礎知識：青森県保育士等キャリアアップ研修（青森市）

実施年月：2018/2/9

内容：学校における食育実践発表会に伴うシンポジウム（青森市）

実施年月：2018/2/21

内容：行政栄養士の人材育成～地域の栄養課題の解決に向けて～ 静岡県平成29年度健康施策研修（公衆栄養研修）（静岡市）

実施年月：2018/3/8

内容：調査データから何が見えるか～各種調査データから地域差をみる～ 秋田県行政栄養士の人材育成に関する振り返り検討会・研修会（秋田市）

業績集 地域貢献諸活動

実施年月：2018/3/10

内容：野菜摂取による食生活改善。「野菜で健康大作戦」研修会（青森市）

実施年月：2018/3/11

内容：ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2018 パネリスト（横浜市）

実施年月：2017/5/8

内容：栄養疫学，東京医科歯科大学「公衆衛生学」講義（東京）

実施年月：2017/8/12

内容：栄養政策に関わる考え方，神奈川県立保健福祉大学大学院.栄養政策論（横浜市）

実施年月：2017/10/2、10/10

内容：生活習慣病等の予防戦略 ～Public Health の視点から～，首都大学東京大学院人間健康科学研究科人間健康科学専攻「予防医学特論」（東京）

実施年月：2018/2/3

内容：栄養学・栄養実践のため 科学的根拠・理論・考え方を学ぼう 盛岡大学栄養科学部 特別講義（盛岡市）

実施年月：2016/6～

内容：タウン情報誌 ふいーらあ倶楽部連載 「健やか県民家族」（全5回）

実施年月：2017/11/18～11/22

内容：カンボジア給食支援事業に係る技術指導

氏名：今 淳

実施年月：2017/4

内容：皮膚科医の欠員或いは不足している医療施設にて皮膚科診療を行うとともに，医師(研修医を含む)，各種コメディカルスタッフ等への指導及び助言を行う。

氏名：オガサワラ メリッサ

実施年月：2017/10/28、10/29

内容：2017年10月28日、29日に青森県立保健大学において、青森県内のボランティア通訳者、医療者、医療現場で通訳の経験のある人などを対象に、「知識、技術、倫理」の基本講義と演習を実施した。今年5年目を迎えたことから、実際の医療通訳の現場の様子を共有することを目的とし、通訳業務で必要なことは何かを一緒に考え、情報交換の場にした。

氏名：清水 亮

実施年月：2017/10/21

内容：WAVES(We Are Very Educators for Society) JSPEN が主催する「元気に食べていますか?」運動にボランティアとして参加。

氏名：乗鞍 敏夫

実施年月：2017/7

内容：栄養素のはたらきとエネルギー代謝 秋田北高校

実施年月：2017/7

内容：たんぱく質とアミノ酸の栄養価計算の現状と課題

～フレイルティの予防に向けて～

業績集 地域貢献諸活動

実施年月：2017/8

内容：食品由来の p-ターフェニル化合物の生理活性
と構造-活性相関

地域連携・国際センター一年報

I 認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）報告

1 セカンドレベル実施概要

平成 29 年度は、セカンドレベルの教育課程を開講した。

(1) 日程：第 1 クール 平成 29 年 6 月 22 日（木）～7 月 21 日（金）

第 2 クール 平成 29 年 8 月 16 日（水）～9 月 1 日（金）

(2) 受講者 34 名（修了者 34 名；県内 26 名、県外 8 名）

（副看護部長職 3 名、看護師長職 28 名、主任看護師職 3 名）

(3) 内容：

- ・カリキュラムは、「看護組織管理論」、「人的資源活用論」、「ヘルスケアサービス管理論」、「医療経済論」、「統合演習」の 5 つの教科目からなる。時間数は規定の 180 時間のほかに、コースガイダンス、ヒューマンネットワーキング、図書オリエンテーション、レポートの書き方、プレゼンテーション等 12 時間を加え、計 192 時間であった。
- ・講師は、県内外の専門分野の教育・研究・実践者が担当し、学内教員の協力も得た。
- ・学習方法は、成人学習者として主体的に展開することを目指し、講義、演習、プレゼンテーションにより構成した。

2 セカンドレベルフォローアップ研修

(1) 目的：自らが立案した組織の改善計画の実施を推進するとともに、セカンドレベル修了者の看護管理実践能力の向上を目的とする。

(2) 内容：セカンドレベル終了後の実践状況報告及びコンサルテーション

(3) 開催日時：平成 30 年 2 月 17 日（土）9:30～17:30

(4) 場所：道の駅「ゆ～さ浅虫」4 階大会議室

(5) 参加者：平成 29 年度セカンドレベル修了者 29 名、演習支援者 10 名（教員 2 名を含む）、専任教員 1 名、受講者所属機関関係者 8 名 計 48 名

Ⅱ 研修科事業報告

平成 29 年度の研修科事業の概要

1 公開シンポジウム「第 17 回地域包括ケア・フォーラム in 青森」

(1) 企画の背景

昨年度は、がん対策・がんサバイバーの意思決定支援をテーマに開催し好評を得た。参加者アンケートからも、がん患者への具体的な支援をさらに学びたい、知りたいという声が多数みられた。近年、がんの診断・治療法の進歩により日常生活との両立を目指すがんサバイバーが増加していることから、がん対策の中でも保健医療福祉専門職の協働による移行支援・就労支援をより充実させる必要があり、青森県の課題であるがん対策の中でも今後重要視される移行支援・就労支援について、各専門職や当事者の共通理解を深めるものである。

(2) 研修目的

現状をふまえて、県下のがん対策について多職種が行っている取り組みについて発表し、今後の連携のあり方について意見交換を行う。

(3) 研修受講者

県内保健医療福祉専門職、本学教員、本学学生・院生：80名

(4) 開催日時および場所

平成 29 年 11 月 30 日（木）13：30～16：30

青森県立保健大学 A 棟 1 階 A111 教室

(5) 研修内容

テーマ「がんと共に生きる。育てよう私たちのサバイバーシップ(Part II)」

ア 基調講演：講師：はちのへファミリークリニック 院長 小倉和也氏

「地域で療養するがんサバイバーへの支援について」

イ シンポジウム：「多職種で考える、がんサバイバーのリワークへの取り組み」

座長：はちのへファミリークリニック 院長 小倉和也氏

シンポジスト

○がん相談：弘前大学医学部附属病院 腫瘍センター がん診療相談支援センター 青木広美氏

○就労支援：青森労働局 ハローワーク青森 就職支援ナビゲーター 神ひろみ氏

○当事者支援：リレー・フォー・ライフ・ジャパン青森実行委員会 実行委員長 菊地政彦氏

ウ ディスカッション

(6) 研修の成果および評価

研修会終了後、アンケート調査を実施した。参加者 80 名のうち、40 名（回収率 50%）から回答をいただいた（詳細はアンケート結果参照）。基調講演の満足度は、「満足した」43%、「概ね満足した」53%、シンポジウムの満足度は「満足した」53%、「概ね満足した」45%であった。今後の職務に「大いに役に立つ」60%、「少しは役に立つ」35%で、研修会の評価は概ね良好であった。

(7) 反省点（次年度への改善点など）

本来の配布資料ではなく、講師（シンポジスト）が持参された資料の部数が不足していたため、一部の受講者に配布されない資料があった。講師にご持参いただく資料については、予備を含めた部数を事前に連絡する必要がある。

る。また、今回は基調講演の資料がなかったことに対し、資料が欲しかったという要望が多かったことから、講師には配布資料の作成を含めて依頼することが必要である。

今後もアンケート結果に基づき、受講者の要望に応えるべく、シンポジウムの内容、運営方法等を十分に考慮し、より良い研修会の開催に向けて検討する必要がある。



シンポジウムの様子

2 研修企画・実施助成事業

県内の保健医療福祉専門職を対象とした研修企画を募集し、助成を行った。採択された研修企画・実施助成については事業実績報告書参照のこと。

3 認定看護師フォローアップセミナー

- (1) 目的：認定看護師の役割を振り返ることや自己研鑽のため
- (2) 対象者：がん化学療法看護認定看護師（本学課程修了者）11名
- (3) 開催日時：平成30年1月27日（土）13:00～17:00
- (4) 場所：青森県立保健大学 A棟1階A107教室
- (5) 内容：ア 講義「未来のがん化学療法看護を担う人材育成」
講師 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 副看護師長 山下まゆみ氏
イ 事例検討「認定活動における困難事例の検討」



講師：山下 まゆみ氏



セミナー風景

カウンセリングの新展開としてのフォーカシングと対人援助スキルの向上

— インタラクティブ・フォーカシングの体験的理解（中級編） —

岡田敦史¹⁾・鳴海明敏²⁾・前田満寿美³⁾・伊藤三枝子³⁾

1) 青森県立保健大学, 2) 青森おおぞら学園, 3) インタラクティブ・フォーカシング学習会

1. 企画の背景

カウンセリングの新たな展開である「フォーカシング」は、クライアント中心療法から発展した中核概念であり技法である。現在、世界的にも注目されている心理支援法である。また、フォーカシングは心理支援機能として看護、社会福祉、教育等の専門的対人援助技術の中へ取り入れることが可能であり、様々な領域で活用できる援助スキルである。そのうえ、対人援助専門職の協働を促進することにも利用可能である。そこで、昨年度は対人援助職のセフケアの視点から入門編を実施したことに引き続き、今回は「中級編」として位置づけ企画する。次年度以降も上級編、応用編と継的研修を企画する予定である。

2. 研修目的

保健・医療・福祉・教育等の専門職に要求される対人援助スキルとして、フォーカシングを学習する。加えて、フォーカシングを活用して対人援助職の協働を促進する能力を身につけることが目的である。今回は中級編であり、今後の更なる技法習得研修につながる内容とする

3. 研修受講者

職種：児童養護施設心理担当職員や高齢者施設施設長等

受講者数：修了者数 12 人（のべ参加者数 24 人）

4. 開催日時および場所

平成 29 年 11 月 1 日（水）～11 月 2 日（木）

青森県立保健大学 B 棟 B217

5. 研修内容

中級編導入として、フォーカシング指向カウンセリングについて、本学岡田講師及び外部講師として日本フォーカシング協会 フォーカシングトレーナー前田満寿美氏、フォーカシングトレーナー伊藤三枝子氏、青森おおぞら学園鳴海明敏氏によるインタラクティブ・フォーカシングについて講義とデモンストレーションをおこなった。その後、小グループに別れ、両講師の指導のもと、ワークショップ形式による体験的学習を行った。

6. 研修の成果および評価

受講生にとっては、知識習得型研修にとどまらず、体験的に理解を深めることができ大変有意義な研修会であった。今後の対人援助や相談援助に生かすことのできる研修内容であった。研修終了後のアンケート調査から自由記述を以下に一部抜粋する。

感想および評価：プログラムがとても良く練られていることやデモンストレーション、エクササイズがあり分かりやすいし、テキストも良く出来ている。74 歳になるが、2 日間ゆったりと時間をかけ、人と人との関係を深める技法を学ぶことができた。

訪問看護師の実践力・実習指導力アップ研修

細川満子¹⁾、泉美紀子²⁾、坂田千佳子³⁾、松尾泉¹⁾、菊池美智子²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 中央学院大学、3) 公済会訪問看護ステーションやまびこ

1. 企画の背景

看護は、これまで対象の疾患や障害を問題としてとらえて看護展開を行う問題解決型志向モデルが重視されてきた。しかし、在宅では対象を疾患や障害を有している生活者としてとらえ、その人の価値観や目指したい生活を営むことができるように目標指向型の看護が求められる。そこで看護展開のパラダイムシフトが可能な国際生活機能分類（International Classification of Functioning；以下 ICF）に基づいたモデルを看護実践や実習指導へ導入し、在宅看護の質の向上を目指したいと考えた。

2. 研修目的

本研修は青森県内の訪問看護師を対象に ICF に基づいた在宅看護過程を理解し、看護実践および実習指導へ活用することを目的とした。

3. 研修受講者

職種：訪問看護師、作業療法士および教育関係者

受講者数：修了者数 59 人

4. 開催日時および場所

訪問看護師を対象とした研修会は青森市内で開催されることが多く、研修会へ参加する機会が限られている。そのため本研修会は出前方式として、各地に赴き開催した。

青森会場：2017 年 5 月 27 日（土）13：30～16：00、青森県立保健大学

八戸会場：2017 年 7 月 22 日（土）13：30～16：00、八戸市医師会交流センター

むつ会場：2017 年 9 月 16 日（土）13：30～16：00、公済会館

三沢会場：2017 年 12 月 9 日（土）13：30～16：00、三沢市国際交流教育センター

5. 研修内容

研修は主に ICF の概要、活用方法および意見交換で構成した。

① ICF の理念と訪問看護過程に活用する意義について（講義）細川担当

② ICF を導入した看護実践および実習指導の実践報告（講義）坂田担当

③ 訪問看護に ICF を導入するための方法（講義）泉担当

④ 意見交換 テーマ「ICF を看護実践・実習指導へ導入するために」全員担当

⑤ まとめ、アンケート 細川担当

6. 研修の成果および評価

研修会の参加者は青森会場 9 名、八戸会場 21 名、むつ会場 18 名、三沢会場 12 名、計 59 名であった。職場で ICF を活用している者は 28.6%と少数であったが、研修後看護実践へ活用したい者は 36.7%、活用する努力をしたい 59.2%と合わせると大半の者が看護実践へ ICF を活用したいと考えていた。また ICF の理解について、「ICF の内容」について「理解している」は研修前 33.3%であったが、事後 100%、「訪問看護計画に活用するメリット」は「理解している」は研修前 15.7%、研修後 98.0%、「活用の方法」は「理解している」研修前 11.8%、研修後 95.7%と研修の成果が示された。

今後、学びたいこととして「実際の事例検討を行い理解を深めたい」、「意思表示や認知症の利用者への ICF モデルの活用について知りたい」、「ICF モデルを活用して現状のものからどのように変化するのか」等の意見が出され、継続的な研修会の開催が期待されていることがうかがわれた。

「産業看護アセスメントツール」の活用に関する研修会

千葉敦子¹⁾、伝法谷明子¹⁾、金野将也¹⁾、村上杏子²⁾、大賀佳子³⁾、三上梨沙⁴⁾

1) 青森県立保健大学看護学科、2) 東京地下鉄(株) 人事部健康支援センター、3) 青森県立保健大学大学院、4) 東北電力(株)青森支店

1. 企画の背景

県内には、企業等で社員の健康管理や健康増進を業とする保健師・看護師が約 80 名活躍しているが、多くは看護職が一人体制のいわゆる一人職場の状況にある。そのため、産業看護職の人材育成の体制は十分ではなく、最新の知識を学ぶ機会は限定的である。2014 年に「産業看護アセスメントツール」が河野らにより開発された。このツールは対象となる個人や集団・組織の情報を収集し、アセスメントし、ケアの方向性を導き出すことを可能とする体系化されたツールであり、看護過程の展開およびケアの質的向上に有用であることから、県内の産業看護職の方々にも紹介したいと考えた。

2. 研修目的

県内の産業看護職が「産業看護アセスメントツール」について学び、自社で活用できるようになることを研修の目的とする。

3. 研修受講者

職種：保健師、看護師 受講者数 17 人、修了者数 17 人

4. 開催日時および場所

開催日時：7 月 22 日（土）13：00～15：30 開催場所：本学 A 棟 1 階 A112 教室

5. 研修内容

13：00～13：15 講義「産業看護アセスメントツール」の概要

13：15～15：20 演習「産業看護アセスメントツール」を活用するには

15：20～15：30 まとめ

講義は産業看護アセスメントツールの開発に携わった村上杏子先生が担当し、産業看護の看護過程におけるアセスメント、集団・組織のアセスメントツールのしくみについて教授していただいた。演習は 4 つのグループにわけ、1 グループ 4～5 人で事例検討を行った。事例は「産業看護の経験がない看護職が中規模事業場を初めて受けもちアセスメントした事例」であり、産業看護アセスメントツールを用いてケアの方向性を導き出すためのアセスメントを各グループで行い、発表し、最後に講師から講評をいただいた。演習では、本学教員および院生がファシリテーターを務めた。

6. 研修の成果および評価

研修の評価として参加者にアンケートをとったところ、講義の理解度は 78.5% がとても良く理解できたと回答し、満足度では 84.6% が非常に満足と回答していた。また、アセスメントツールを今後活用してみたいと思うかの問いには 84.6% が非常に思うと回答し、目的である自社での活用に関して有効であったと考えられる。自由記載では、「このような有意義な研修会を無料で受講させていただき感謝申し上げます」「日ごろ一人職場で仕事をしており、最新の情報やツール等、大変刺激を受ける機会となりました。ありがとうございました」「楽しい雰囲気学ぶことができました」「年 1 回位中央から産業看護に関わる方においでいただけると嬉しいです。すごく刺激を受けました。ありがとうございました」「もっと回数を増やしてほしい」等の記載があり、県内産業看護職の研修に対するニーズの高さと重要性が示唆された。

平成 29 年度 青森糖尿病看護・心理研究会 研修会

「認知行動療法を取り入れた糖尿病ケアの実践を目指して！！」第 1 回～第 3 回

企画提案・実施者 市川美奈子¹⁾ 井澤美樹子¹⁾ 伊坂裕子²⁾

1) 青森県立保健大学 2) 日本大学

1. 企画の背景

糖尿病患者の物事の捉え方（療養の認知）が、療養の負担感や治療の中断に影響しており、認知行動療法がその軽減に有用であることが分かってきた。そこで心理を専門としない医療職者でも認知行動療法を活用できる教育プログラムを開発、検証してきた（井澤 2015）。今回は、認知行動療法を実践できる医療職者の更なる育成に向けて、教育プログラム内の 3 回の研修会を実施するものである。

2016 年に厚生労働省が制定した「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」では、重症化リスクの高い糖尿病患者への保健指導を重要視している。一方、厚生労働省「2015 年人口動態統計月報年報」によると、人口 10 万人に対する糖尿病による死亡率は、都道府県別では青森県が 18.2 人で、全国平均の 10.6 人を大きく上回り、2 年連続で全国ワースト 1 位だった。認知行動療法を実践できる医療職者の育成は、青森県の糖尿病重症化予防のために重要である。

2. 研修目的

認知行動療法を活用した糖尿病ケアを実践できる医療職者の育成を目的とする。

3. 研修受講者

職種：看護師 受講者数：修了者数 2 人（のべ参加者数 3 人）

4. 開催日時および場所

第 1 回 2017 年 8 月 20 日（日）12：30～16：00 A 棟 4 階看護学科研究室

第 2 回 " 9 月 3 日（日）12：30～16：00 A 棟 4 階看護学科研究室

第 3 回 " 10 月 1 日（日）12：30～16：00 A 棟 4 階看護学科研究室

5. 研修内容

各回の目標は、第 1 回認知行動療法を自分に活用してみよう、第 2 回認知行動療法を他者に活用してみよう、第 3 回他者への活用を分析し、認知行動療法の実践を目指そうである。講義と演習、グループワークなどを織り交ぜた 3 回の研修会と、体験をとおして理解を深める 2 回のホームワークで構成し、理解から実践へとつながるように工夫した。臨床の限られた時間で活用できる「簡易認知変容ツール：自分日記」を作成し参加者に実際に活用してもらった。講師及びファシリテーターは井澤美樹子、市川美奈子、伊坂裕子が担当した。

6. 研修の成果および評価

参加者のアンケート結果から、各回の目標は概ね達成できた。さらに日々のケアに認知行動療法を取り入れることは重要である、臨床で活用したいという意見があり、認知行動療法を実践に活用する意義を実感できていたことから、本研修の目的は達成できたと評価できる。

7. その他（改善検討事項、特記事項など）

定員 20 名に対し、参加者が 3 名と少なかった。糖尿病療養指導士単位認定の研修会とすることで、興味がある看護師及び医療職者への広い周知が可能となる。今回、認定申請の手続きに時間がかかり、その後の関連施設への文書での周知・広報がスムーズに行かなかったことが要因と考える。申請期間を含めて研修時期を検討することも必要であった。

平成 29 年度「医療通訳養成研修Ⅱ」

川内規会¹⁾、小笠原メリッサ¹⁾、三木紅虹²⁾

1) 青森県立保健大学、2) RASC コミュニティ通訳支援センター

1. 企画の背景

「医療通訳養成研修」を実施し、今年度で 5 年目を迎えた。そこで過去の医療通訳研修修了者をはじめとし、医療者やボランティア通訳者を対象にステップアップしたものを開催したいと考え「医療通訳養成研修Ⅱ」を企画した。医療現場で通訳できる人の養成を目指しながら、県内のボランティア通訳の現状と課題を共有し、専門性のある知識と技術が得られるような研修とし、現役の医療通訳者を講師に迎え、レベルアップした研修を企画した。

2. 研修目的

青森県の医療の現場で活躍できる通訳者を養成することが目的である。一般的な通訳業務と異なり医療の専門的な分野では、語学力以外にも医療分野の知識、通訳技術、倫理など多くの視点が必要になることを再確認してもらい、実際の医療の現場で、医療者と外国人患者の双方を助けるべく、医療の通訳業務が円滑に実践できるような知識と技術を身につけてもらうことを目指した。

3. 研修受講者

職種：医療関係者（看護師、助産師、介護福祉士、がん相談支援センター医療者等）

教育関係者（看護系大学教員、救急救命学科教員、養護教員、英会話塾講師）

ボランティア通訳者（青森市ボランティア通訳、青森県ボランティア通訳、米軍基地通訳等）

その他 受講者数：22 人（2 日間のべ参加者 40 人）

4. 開催日時および場所

開催日時：10 月 28 日、29 日 10：00～16：30 開催場所：青森県立保健大学 1 F A107 教室

5. 研修内容

学外講師：三木紅虹氏（中国語医療通訳者/RASC コミュニティ通訳支援センター副代表）

学内講師：川内規会准教授、小笠原メリッサ講師

講義内容：日本の医療通訳の概要、医療現場の現状と心構え、医療通訳倫理と最新情報

演習内容：通訳技術（クイックレスポンス、ノートテイキング）、通訳実践（専門用語）、ロールプレイ（場面別役割練習）

グループワーク：体験の共有、継続的学習方法

6. 研修の成果および評価

研修参加者による評価は高く、講義、演習内容もそれぞれ満足度が高かった。特に現役の中国語医療通訳講師から、実際の医療通訳時の問題（感染症や誤訳など）や医療通訳者の立場の思いをきけたことが好評であった。また、参加者からは本研修の意義が認められたようで、場面別役割練習や日本の医療通訳の最新情報などに対しても、「新しい知識や情報を学べてよかった」「医療の場で通訳するにはこのような研修を受けるべきだと感じた」「具体的な内容が多く非常に勉強になった」「今後も研修を続けてほしい」といった前向きな声が多かった。また、今回の研修は新聞記事にも取り上げられ（東奥日報 2017. 10. 29.）社会からの期待が大きいことも感じ取れた。今後も充実した内容を考え継続的に実施していきたい。

Ⅲ 国際科事業報告

平成 29 年度の国際科事業の概要

1 韓国仁濟(インジェ)大学校との交流

(1) 仁濟大学校から本学への研修

ア 来学者：仁濟大学校物理治療学科 3 年生 4 名（男性 1 名、女性 3 名）、引率教員 1 名

イ 研修概要

①期間：平成 29 年 6 月 28 日（水）～平成 29 年 7 月 28 日（金）

②日程：6 月 29 日（木）～7 月 7 日（金）オリエンテーション、病院・施設見学及び学内授業参加

7 月 10 日（月）～7 月 20 日（木）弘前脳卒中・リハビリテーションセンターで研修

7 月 24 日（月）～7 月 27 日（木）自習研修、発表準備、研修成果発表、修了式

7 月 28 日（金）帰国

ウ 次年度の検討事項

①ドミトリーは学生からの評判が良く、来年も今年と同様に使用する。

②来年度も通訳業者に依頼する。

③弘前脳卒中・リハビリテーションセンターでの研修は今年と同様に実施する。

仁濟大学校からの学生の感想

・研修や日本の病院での経験は素晴らしかったです。

・日本の友達ができて、嬉しいです。

・学内外の研修で、日本文化の経験ができ、勉強になりました。

・日本文化や学生の日常生活について、もっと深くまで知りたいと思いました。



日本語と日本事情の授業



留学生の歓迎会



修了式

(2) 青森県立保健大学から仁濟大学校への研修

ア 行学者：青森県立保健大学理学療法学科 3 年生 4 名（女性 4 名）、引率教員 1 名

イ 研修概要：

①期間：平成 29 年 8 月 30 日（水）～平成 29 年 9 月 15 日（金）

②日程：8 月 31 日（木）～9 月 1 日（金）学校内オリエンテーション・挨拶回り

9 月 4 日（月）～9 月 7 日（木）病院内研修と大学校内国際交流イベント

9月11日（月）大学校内行事と研修報告

9月12日（火）ソウルへ移動

9月13日（水）～9月14日（木）Seoul Community Rehabilitation Center や関連施設などの見学

9月15日（金）帰国

ウ 次年度の検討事項

目的地まで移動する方法を検討したい。直接目的地まで行ける方法があれば、便利である。

本学学生の感想

- ・今回の海外研修に行く前に、将来に向けて視野を広げたいと思っていましたが、実際に終えてみると想像以上の刺激を受けて視野が広がっただけではなく、人との繋がりも出来上がりました。言葉の壁も感じましたが、韓国の方々の優しさに何度も心打たれました。本当に参加してよかったと思っています。
- ・韓国の理学療法を見学し、日本との違いも学びました。韓国の学生と同じ生活を経験することができ、一般的な海外旅行ではできない経験をたくさんさせていただきました。今回の海外研修で私の学習や将来に対する視野が広がりました。
- ・韓国では感謝しきれないほど、たくさんの韓国人にお世話になりました。私達は日本に来てくれていた韓国の友人たちに、ほとんどおもてなしできなかったことが、唯一後悔していることです。来年、短期国際交流を図る後輩たちにはぜひ、来日した韓国の方々に、精一杯のおもてなしをしてほしいと心から感じます。
- ・本当に楽しく、学びの多い研修になりました。病院実習では韓国の理学療法を自分の目で見る貴重な体験ができました。言葉の壁を初めて体感して、毎日試行錯誤でコミュニケーションを取りました。通じ合えたときの喜びは忘れられません。



韓国文化・朝鮮服の体験



歓迎会

（担当者：理学療法学科 マイケル スミス）

2 国際科特別講演会

《開催日》平成29年6月29日（木） 17:10～18:10

《会場》本学B棟1階 B110教室

（1）テーマ：“*New Model of Thermotherapy Device: Universal Design of Modified Paraffin Bath*”

「新しい温熱療法装置のモデル：改良型パラフィン浴のユニバーサルデザイン」

（2）講師：仁済大学校医生命工学大学物理治療科 教授 安 徳賢 氏

（3）内容：ユニバーサルデザインに基づいて開発した、最新パラフィン療法装置について、安教授が講演された。

ユニバーサルデザインという基本的で共通する概念をベースとし、専門的な内容を分かりやすく説明してくださった。

（4）参加者：学生32名、教職員10名



安徳賢先生



参加者の様子

(担当者：理学療法学科 マイケル スミス)

3 国際科講演会

(1) 日 時：平成29年11月11日、13:30~15:00

(2) 会 場：青森県立保健大学、A棟111講義室

(3) テーマ：「国際的に活躍している青森のひと、日本を出て見えてきたこと」

(4) 講 師：①田山美由紀氏：青森県立保健大学の看護学科を卒業後8年間病院に勤め、青年海外協力隊として2年間モンゴルで活躍。

②山内リチャードソン澄子氏：10年間アメリカで過ごし、現在県内のインバウンドデザイナーとして青森の素晴らしさを伝えるために活躍中。

(5) 講演内容：海外に行くきっかけをはじめとして、外国での活動や思いなどを、写真を交えながら、分かりやすく講演をしていただきました。田山氏は病院内の日本とモンゴルの状況の違いを受け止め、原因を考え見方を考え対応することの大切さを示してくださいました。山内氏はかつてアメリカの様々な土地を訪れながら、言葉が通じなかった時に対等にできない辛さを感じたことや、ソーシャルワーカーとして活動した経験を語っていただきました。聴衆は発表者の話に感銘を受けたようで、聴衆の中には講演が終わった後も残り、発表者に質問をしていた人もいました。今回の講演会では発表者の内容に聴衆が大変関心を持ってくれたようです。

(6) 参加者：43名

(7) 参加者のアンケートより：

- ・国際的な活動を通して、人とのつながりや人とコミュニケーションの中で大切なことについて考えさせられた。とても良い講演でした。
- ・青年海外協力隊について興味・関心があったため活動などについて知ることができて良かったです。
- ・日本だけにいると見えないことや外の世界への好奇心がより強くなりました。世界中の人と本音で話して青森だけでなく、日本をそうした場所を作りたいと思いました。



発表者：山内リチャードソン澄子氏（左）
& 田山美由紀氏（右）



発表者と参加者講演後の交流

(担当者：理学療法学科 マイケル スミス)

4 国際交流講座

《開催日》 平成 29 年 10 月 7 日(土)、10 月 8 日(日) 本学大学祭において実施

《場所》 青森県立保健大学 B 棟 1 階 講義室 B4(B109)

《テーマ》 『世界を変える力ー海外でのボランティアの活動紹介ー』

《内容》 ①上映会 「いつか世界を変える力になる」
②写真展 保健・医療・福祉分野に関わる JICA ボランティアの活動紹介

《共催》 独立行政法人 国際協力機構東北支部(JICA 東北)

《来場者数》 127 名(回収アンケート数より)

《アンケート結果抜粋》・アンケート回答者の背景は、男性 39 名(30.7%)、女性 88 名(69.3%)であり、年齢は 12 歳以下 1 名(0.8%)、13~15 歳 1 名(0.8%)、16~18 歳 10 名(7.9%)、19~29 歳 37 名(29.1%)、30~39 歳 14 名(11.0%)、40~49 歳 19 名(15.0%)、50~59 歳 25 名(19.7%)、60~69 歳 14 名(11.0%)、70 歳以上 6 名(4.7%)であった。
・開発途上国の現状や国際協力についての理解を問う設問に対する回答は、「とても深まった」37 名(29.1%)、「やや深まった」72 名(56.7%)であった。また、このようなイベントがあった方がよいかを問う設問に対する回答は、「あった方がよい」121 名(95.3%)であった。自由記載には「貴重な機会ですとても心に響いた」「毎年参加している」「企画を継続してほしい」などの感想があった。
・アンケート回答者の 85%以上が開発途上国の現状や国際協力について理解が深まったと回答しており、今後も同様のイベントを望むとするニーズも高かった。さらに、「大学独自の取り組みも見たい」「このような文化的展示を増やしてほしい」と望む声もあり、今後の課題として検討していきたいと考える。

(担当者: 看護学科 本間ともみ)

5 英語教員の地域交流

(1) イングリッシュ・カフェ

English Café was held on August 6th during the annual Open Campus at Aomori University of Health and Welfare. The café provides prospective students with a chance to meet the English teachers and experience communicating in English as they would in the classroom. English teachers chatted with students from various Junior and Senior high schools about their hobbies, family, school and other topics of interest to them. Drinks and snacks were served to create a relaxed café-style experience. We welcomed a mix of both boys and girls and the students tried hard to speak with the teachers in English. Participants sat in small groups, often with students from other schools, so it also gave them a chance to meet and chat with other students. Students are often shy when they first join us but quickly relax and always enjoy the experience. We look forward to welcoming students again next year.



(English Café Poster)



(English teachers, participants and volunteer students)

(担当者: 栄養学科 Mellisa Ogasawara)

(2) 海外ゲーム交流

外国の子どもたちが遊んでいるゲームを体験し、海外の文化に触れることを目的として、平成 29 年 7 月 28 日(金)に第 1 回目の海外ゲーム交流が本学体育館で行われました。近隣の小学生 24 名が参加し、英語で本学外国人教員との楽しい交流でした。2時間で5つのゲーム(エッグスプーンレース、キックベースボール、クリケット、アルティメットフリスビー、氷おに)を体験しました。中でも氷おにがとても盛り上がり、子どもたちの間で一番人気のゲームでした。ゲームの他に「オレンジ休憩」も体験できました。オレンジ休憩というのはオーストラリアに子どものスポーツイベントで休憩を取るときにオレンジを食べる習慣があります。30個のオレンジがあつという間になりました。オレンジ休憩はとてもヒットでした。子どもたち全員が「とても楽しかった」と「また参加したい」と答えてくれました。他にも以下のコメントがありました。

- ・どのゲームも日本のものじゃなかったなので、おもしろかったです。
- ・外国のゲームは知らなかったなので、楽しかったです。
- ・氷おにでおにが 1 人ずつ 2 分で増えて楽しかったです。
- ・外国の先生たちがとてもやさしかったです。
- ・すごくおもしろくて、今までの中で一番楽しかったです。

また参加した子どもたちの親からのコメントは以下のとおりです。

- ・外国の遊びを外国人の先生と一緒に体験できる機会は他になく、貴重でした。
- ・学校や学年の違うお友達とみんなと一緒に身体を動かして汗をかき、とても楽しんでいるようで、見ていて微笑ましかったです。
- ・同じ年の子どもたちと先生と海外のゲームをし、交流を深めることもでき、またこのようなイベントの機会もあまりないので、参加させたいです。なによりもとっても楽しそうです。
- ・ネイティブの人たちと触れ合うことは、なかなか機会がないので、貴重な体験だと思います。楽しませていただきました。ありがとうございます。
- ・このような機会をもっと作っていただきたいと思います。見ていて、とても楽しかった。



(5人の先生たちと24人の参加者)



(氷おにの様子)

(担当者:栄養学科 Mellisa Ogasawara)

IV 社会福祉研修実績

総括表

研修名	開催日程	研修日数	定員	受講者数	会場
		日	人	人	
社会福祉行政新任職員研修	4/27	1	60	18	青森県立保健大学
老人福祉施設新任職員研修	5/12	1	140	120	青森県立保健大学
保育所新任保育士研修	5/18	1	160	139	青森県立保健大学
障害児・者福祉施設新任職員研修	5/26	1	160	172	青森県立保健大学
高齢者支援セミナー	6/5または6/19	1	30、30	29、28	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修（保育所）	6/21	1	100	56	青森県立保健大学
社会福祉施設職員経理研修（保育所以外）	6/22	1	130	120	青森県立保健大学
保育所セミナー	7/11	1	60	91	青森県立保健大学
栄養・食育マネジメントセミナーⅠ	7/13	1	150	146	青森県立保健大学
社会福祉施設職場研修担当者研修	7/24～7/25	2	40	43	青森県立保健大学
栄養・食育マネジメントセミナーⅡ	7/27	1	150	99	青森県立保健大学
社会福祉施設中堅・指導的職員研修	8/8、8/29～8/30	3	30	30	青森県立保健大学
社会福祉トップセミナー	8/19	1	200	96	青森県立保健大学
生活保護従事職員・査察指導員研修	9/5	1	30	7	青森県立保健大学
子ども・家庭福祉担当職員セミナー	9/15	1	60	42	青森県立保健大学
社会福祉施設看護職員研修	9/20	1	150	138	青森県立保健大学
保育所新任保育士フォローアップ研修	10/12	1	160	74	青森県立保健大学
障害児・者支援セミナー	10/18	1	60	105	青森県立保健大学
社会福祉援助技術研修	11/6または11/13	1	30、30	29、21	青森県立保健大学
カウンセリング研修（初級Ⅰ）	11/16	1	60	59	青森県立保健大学
カウンセリング研修（初級Ⅱ）	11/17	1	30	35	青森県立保健大学
セーフティネットフォーラム	2/14	1	100	48	青森県立保健大学
社会福祉主事資格認定講習会	5/22～11/24 (実習6日間含む)	54	60	37	青森県立保健大学他

V 平成29年度公開講座実績

基本テーマ：生活と健康 年度テーマ：健康生活の実践ーヘルシテラシー（健やか力）を暮らしに根づかせようー

回	月	日	曜	講 師	職 名	講 演 テ ー マ	参加者/年間
1	5	27	土	田中 栄利子	看護学科 講 師	地域で守る子どもたちの未来 ー知っておきたい子どもの救急リテラシーー	361
				千葉 武揚	看護学科 助 教	地域を支える救急医療 ーとっさの時、あわてないためにー	
2	6 ※	10 新	土 町	木村 文佳	理学療法学科 助 手	健康生活に役立つ運動のヒント	272
				井澤 弘美	栄養学科 准教授	「1日1個のリンゴで医者いらず」を科学する	
3	6 ※	24 下	土 北	新岡 大和	理学療法学科 助 教	障がいを抱えても自分らしく生きるために	68
				村田 隆史	社会福祉学科 講 師	変化する社会保障制度の背景を理解しよう！	
4	7	8	土	小山内 豊彦	社会福祉学科 特任教授	県民課題としてのヘルシテラシーの向上	385
				上泉 和子	理事長 学 長	自分のヘルシテラシーアップに挑戦しよう	
5	7	22	土	今 淳	栄養学科 教授	皮膚のアンチエイジングで健康で長生きしよう	287
				大西 基喜	看護学科 特任教授	がんの予防 ーさまざまながんをどこまで予防できるか、 具体的に考えるー	

1,373